

福祉教育常任委員会行政視察

視察日時 令和5年2月2日（木）午前9時半～午後6時
研修先 和歌山県橋本市
議 員 松井委員長、細川副委員長、赤祖父委員、永田委員
執行部 健康福祉部長、教育部長

○橋本市について

和歌山県の北東部に位置し、人口は、約6万人

<学校・園> 公立幼稚園3園、公立保育園1園、認定こども園13園、
小学校14校、中学校5校

<公民館> 9館 職員体制は館長・主事・館職員で、公民館職員は31名。

○行政視察の目的

地域の関係機関等と連携したアウトリーチ型家庭教育支援の取り組みについて学ぶため。

○それぞれの担当者から説明

橋本市では、平成20年に家庭教育支援チーム「ヘスティア」が設置されました。組織として4つの部から構成されている。

(1)講座部 4つの班に分かれている。

①語り合い班は、就学児ワークショップやママズカフェを実施し、保護者同士や保護者と先生の繋がりを作っている。保護者の方は悩み等を話すことで安心したという声が多い。

②食育班は、現在コロナ禍で、実習はできていないが、手作りおやつや朝ごはんのメニューのレシピを渡したり、食の大切さを学ぶ講座等を開催。

③家庭読書班は、読み聞かせの大切さや方法を伝え、親子の会話をすすめる講座を開催。また、公民館の子育てサークルに絵本の読み聞かせをしたり、本の選び方を教えている。5カ月乳幼児健診の「ブックスタート」では、好きな絵本を1冊プレゼントし。子育てに対する不安や悩みを気軽に相談できる関係づくりを行っている。子どもに、どう声掛けすればいいのか分からない、どう遊んだらいいか分からないというママに親子の絆を深めるために、

本を仲立ちに使ってもらえたらとアドバイスをしています。

来年度からは、1歳8カ月健診で「セカンドブック」というのをスタートします。1歳8カ月の子どもさんは結構ウロウロしたり、イヤイヤ期で、親御さんもどうしたらいいのかと悩む時期でもあるので、改めて本をプレゼントして継続的に本を読んで頂けたらと思います。

④アラカルト班は、親子で楽しめる手作りおもちゃや保護者参加の製作活動をきっかけに話やすい雰囲気づくりを行い、交流の場をつくっている。出張講座も行い、幼稚園からも依頼がある。

*広報部の情報誌に食育班はレシピ等を、家庭読書班は、絵本の選書の協力等を行っています。部や班の連携、兼務の方もおられます。

(2) 広報部

家庭教育情報誌「げんきっこ family」を1回5800部を春・夏・秋・冬の季節ごとに年4回発行。子育てサークルの特集ページや公民館、こども館などの講座一覧ページは地域住民からも好評。その他、チラシや講座プログラム掲載の「ヘスティアメニュー集」、「かんたんレシピ」の編集、料理本の発行。

(「げんきっこ family」色鮮やかで、写真が多く、特集記事の内容、絵本の紹介、イベントや講座のお知らせ、レシピ等、盛りだくさんの記事で、素晴らしい！子育て中の方が手に取ってみようと思える情報誌) ↓ げんきっこ family

春の号



夏の号



秋の号



冬の号



昨年の4月から、念願のSNS班ができ、Instagramを開設しました。フェアの講座やイベントのお知らせ、市内の施設や子育て支援の紹介など、子育て世代に役立つ情報、スピーディな情報提供ができるようになりました。

(3) 家庭訪問部

公的機関（園・学校・保健師など）や一般家庭からの依頼に応じて、家庭訪問・個人相談を実施している。育児不安を持つ家庭、福祉的支援を要する家

庭、不登校児童がいる家庭、就学児の多胎児のいる家庭などを対象とする。

(4)本 部

本組織を総括する。家庭教育支援室との橋渡しや活動の調整や活動の取りまとめをしている。部長、班長が集まって、全体会をする前の準備会を行っている。

<主な質疑>

- 地域の子育て経験者による「橋本市家庭教育支援チーム」として平成20年度に橋本市教育委員会により設置された当初の人数や体制についてという質疑に対して、今年で15年目となりました。設置当初は、100名ぐらいに声を掛けて、29名からスタートして、今年度は、39名です。子育て講座修了者、元教師、児童委員、民生委員、学校に勤めている非常勤講師、子育てサークル等の方々が「ヘスティア」のチーム員になって下さった。みんなが対等で尊重され、お互いの信頼し合えるチーム。(見ていても仲の良さが伝わった)
- 令和3年度4月より教育委員会生涯学習課から健康福祉部家庭教育支援室に変更となった理由はという質疑に対して、平成20年当初は教育委員会にあり、平成29年、健康福祉部に子育て世代包括支援センターで切れ目のない子育て支援が求められる。そして、家庭教育支援の充実と教育・福祉の連携を目的に「家庭教育支援室」が保健福祉センターに開設され、「ヘスティア」の所管が教育委員会生涯学習課から健康福祉部家庭教育支援室に変更となった。教育委員会と市長部局からそれぞれ委嘱を受け地域・学校・行政などの関係機関等と連携しながら、支援体制や相談体制の充実を図っている。
- 橋本市家庭教育支援チーム「ヘスティア」の運営資金(人件費、材料費等)と人材の確保はどうしているかという質疑に対して、講師謝礼13万円、ブックスタート本16万5千円、チーム員謝金540万円(時給1,200円)、費用弁償4万1千円、旅費5万4千円、消耗品費20万円、印刷製本費43万6千円、保険料19万5千円、駐車場3千円、高速道路通行料1万円、機械器具費8万4千円。合計671万8千円 →この内636万9千円(対象費目の2/3)が県補助金対象(和歌山県訪問型家庭教育支援推進事業費補助金、うち1/3は文部科学省:地域における家庭教育支援基盤構築事業)
- 地域・学校・行政の連携について。また、行政内(教育と福祉)の連携について、地域の協力はあるのかという質疑に対して、一般社団法人 はしっ子笑顔サポート「ぽれぽれ」にて、読み聞かせなどの講座をする。

子育てサークルで手作りおもちゃやスクラップブックなどの講座を通じて、保護者の繋がりづくり、リフレッシュする機会となる。

○家庭訪問対象者とその訪問体制についての質疑に対して、個別相談の対象者は本人からの依頼、子育て世代包括支援センター保健師からの依頼、学校や園等からの依頼。いずれも本人の希望により実施をしている。その他、転入時に子育て世代包括支援センターで手続きを行った方に転入家庭に対する訪問を実施。また、ブックスタートでお薦めのブックリストなど子育てに関する情報提供を希望した方に対して訪問し、情報提供を行ったり、悩んでいることはないか等の聞き取りを行っている。個別相談に携わっているのが、大体7名ほどです。個別相談件数は年間50件から70件程度です。お届け便など、転入者に対する訪問活動は13名程度で活動しています。

○アウトリーチ型支援の取り組みで壁となる一番の課題についての質疑に対して、支援を届けたい家庭に届けることが難しい。ブックスタートでの希望者に対する情報提供でも少し気になる家庭は訪問を希望しないことがある。講座などに参加する保護者も、講座に参加することのできる余裕がある方が多くなり、余裕がない、気になる家庭は講座の参加に繋がりにくいということ。

<おわりに>

家庭教育支援チーム「ヘスティア」の中心的な担当者から直接お話しを伺うことができ、分かりやすく非常に参考になりました。

活動の目的にあるように「笑顔の子育て応援」をするために、ヘスティアのチーム員1人1人が笑顔で楽しく活動しておられるのが、伝わってきました。

支援員がそれぞれに得意なことをお互いにカバーしながら、チーム力が発揮されているのが分かり、子育て中の方がチームに入ってこられたことで、SNSでの発信も加わり更に、届けたい所に届くツールが確保されました。

子育ての不安や悩みをかかえた方々にとって力強い支えになる組織です。

この14年間、出会いの場を提供して、人と人とのつながりを増やす活動、決して孤立な子育てがないようにと努力されてこられました。良い事ばかりではないとおっしゃっておられたように、努力しても理不尽なこともあったと思います。しかし、当初29名が現在39名へとメンバーが増えていることに表れているように、ヘスティアの活動そのものが、自主的に考え、団結して活動されているからこそ、明るく楽しい活動になっているのではないかと感じました。